



パブリック ステイトメント: 個別化された予防的オストミーケアの推進 - ストーマ管理のための包括的アプローチ -

1. はじめに

本パブリック ステイトメントは、在日デンマーク大使館及びコロプラスト社により草稿された。

その後、デンマーク大使館にて開催されたデンマーク及び日本の患者代表者並びに医療専門家による円卓会議において、以下の参加者より口頭及び書面による意見の提出を受け、本パブリック ステイトメントへ反映され最終版が完成した。

- 木下 静男 氏 公益社団法人 日本オストミー協会 前会長
- 山本 悦秀 氏 歯学博士 公益社団法人 日本オストミー協会 副会長
- 大竹 史朗 氏 公益社団法人 日本オストミー協会 元理事
- 佐々木 香織 氏 一般社団法人 ピアリング理事・ピアリングブルー代表
- マリー・ウス・ピレボ 氏 デンマーク シェラン大学病院 WOC ナース、デンマーク ストーマケア看護師協会 前会長
- 前田 耕太郎 氏 医学博士 医療法人社団 向日葵清心会 青梅今井病院 副院長、日本ストーマリハビリテーション学会 名誉会員
- 松原 康美 氏 北里大学健康科学部 教授、がん看護専門看護師、皮膚・排泄ケア認定看護師、日本ストーマリハビリテーション学会理事、日本創傷・オストミー・失禁管理学会 理事

本パブリック ステイトメントの目的は、オストメイトの生活の質向上のため、End to End の包括的なストーマケアアプローチの重要性について、その認識を高めることにある。



2. 個別化された予防的オストミーケアの推進 - ストーマ管理のための包括的アプローチ

ストーマを造設する手術（ストーマ造設術）は救命処置である一方で、患者の身体的・心理社会的ウェルビーイングに悪影響を与える可能性のある、人生を大きく変える出来事でもある (1,2)。ストーマと共に生きる、ストーマ保有者は、ストーマからの排泄物を回収するためのストーマ装具を使用する必要がある。ストーマ装具は、その誕生以来、技術革新が続いているが、ストーマ保有者の多くは、依然として難題に直面している。

ストーマ保有者の 76%が漏れを経験し、92%は漏れを心配している (1,3)。さらに、88%がストーマ周囲皮膚の合併症を抱え、26%が衣服への漏れを毎月経験している。これらの問題は QOL（生活の質）の大幅な低下につながり、精神的なウェルビーイングや社会活動への参加意欲に影響を及ぼす可能性がある (1)。衣服への漏れによる精神的悪影響は長期に及ぶ可能性があり、一度でも漏れが発生すると最長で 1 年間その心理的悪影響が続くことが報告されている (4)。

デンマークでも日本でも、ストーマケアを強化し、ストーマ保有者が十分な支援と指導を受けられるようにする必要性が認識されつつある。このアプローチは、包括的な術前・術後のサポート、ストーマ保有者の十分なケアへのアクセスなど差別からの保護を求める国際的な患者主導の宣言である「オストメイトの権利憲章」に示された原則に沿ったものである (5)。医療従事者、産業界、政府、そしてストーマ保有者自身が協力することで、これらの権利は守られ、ストーマ保有者が尊厳をもち、包括性（多様な人々が社会や組織の一員として尊重され、価値を認められ、積極的に参加できる状態）の中で生活できる社会を育むことができる。個別化された予防的なストーマケアを優先させることで、ストーマ保有者の QOL（生活の質）が大幅に向上し、その自律性と独立性を高め、さらにストーマ保有者自身による自己管理が可能となり、それにより「オストメイトの権利憲章」の理念をさらに実現できることとなる。

2.1 個人に合わせた予防的ストーマケアの重要性

ストーマ造設術を受けることは、永久的で人生を左右することであり、ストーマ保有者への医療サポートが必要である。ストーマは人それぞれに異なり、タイプによって形状や排泄物の性状が異なるため、必要とされるサポートの内容や程度も個人差が大きい。また、ストーマケアは生涯にわたる旅のようなもので、時間の経過とともにストーマは変化するため、多くの場合、ストーマ装具のタイプやサポートの程度の調整が必要となる。個々のニーズに適した装着とサポートレベルを確保することは、ストーマに関連した合併症を最小限に抑える予防的アプローチにもなる。

したがって、ホリスティック・オストミーケアには、術前の患者教育の時点から始まり、退院後の生活まで継続する個別化された治療計画と予防戦略が含まれる。これらのアプローチによって、



2026年1月9日

漏れ、皮膚刺激、感染症などの合併症を予防できる可能性が高まる。結果として、すべてのストーマ保有者が尊厳と自立を保ちながら、最適なウェルビーイングを享受できるような支援が可能となる。また医療制度にかかる長期的なコスト削減にも寄与する。

ストーマ保有者に対する包括的な End to End の標準ケアは、術前の準備から長期にわたるケアまで、ストーマ保有者の全行程を考慮しなければならない(6-9)。

- 手術前には、体系化された患者教育と心理的サポートによって、ストーマのある生活への移行を理解できるようにする
- 標準化されたプロトコルに従った適切な術前ストーマ・サイト・マーキングは、術後のストーマ合併症を予防し、患者の生活の質の向上につながる。
- 体系的な術前教育を全国的に実施することは、ストーマ保有者の退院後の生活における地域差の軽減に役立つ。
- 適切なストーマケアの実践手順を早期に確立することで、患者が自分自身のケアや意思決定に関与できるようになり、QOL（生活の質）の目標を達成できるようになる。
- ストーマケア看護師による体系的なフォローアップチェックを伴う効果的な退院後プログラムは、ストーマ保有者による試行錯誤的な方法への依存を減らすことができる。
- ストーマが時間の経過とともに変化するにつれて、既存のケアプラン（ストーマ装具(面板)の皮膚保護剤の種類や形、サポート製品の必要性、ストーマバッグの数量など）の調整の必要性が生じうる。

したがって、医療従事者にとって、退院後、ストーマの状態を評価し、ストーマ関連製品への十分なアクセスを確保するために、患者とのフォローアップ面談や術前教育を計画できる能力と、時間的、経済的、物質的（エビデンスや教育資料）リソースが重要となる。

2.2 ストーマ保有者-個人個人に合わせたストーマケア

適切なオストミー製品を利用できることは、質の高いケアの基礎である。適切な製品ソリューションは、ストーマ保有者に自信と尊厳を与え、漏れ、臭い、ストーマ周囲皮膚合併症などの問題の予防に役立つ。ストーマを保有する人への適切な長期的ケアには、漏れや皮膚障害、その他の合併症を最小限に抑えつつ、個々のニーズに応じた個別の対応が求められる。特に、ストーマの形状や体のつくりは一人ひとり異なるため、それぞれに合わせたストーマケアが不可欠である。

- ストーマケア看護師と協力して、臨床評価により、個々のストーマ保有者にどのようなストーマケア計画が必要かを決定する必要がある。
- ストーマの種類（イレオストミー、コロストミー、ウロストミー）、ストーマ周囲の体型（平坦型、陥凹型、山型）、その人のライフスタイルや活動レベル、潜在的な障害などの要



2026年1月9日

因が、個々のニーズに対応するために必要なストーマケア用品に影響を与える可能性がある。

- 個別性の高いストーマケアを実現するためには、十分なストーマケア用品への幅広いアクセスが不可欠である。
- 適切なストーマ製品ソリューションと個人に合わせたストーマケア計画により、ストーマ保有者はより自立することができ、漏れの発生や皮膚の合併症による医療従事者とのやり取りを最小限に抑えることができる(10,11)。
- 漏れとストーマ周囲の皮膚合併症を減らすことは、ストーマ保有者に尊厳と自律の感覚を与えることができる。

ストーマ保有者が適切なストーマケア計画を取り入れることで、社会全体が恩恵を受ける：

- ストーマ保有者がより効果的なセルフケアを行うことで、医療制度は恩恵を受け、それにより医療負担が軽減される。
- ストーマ保有者が積極的に参加し、労働力や社会に対して有意義な貢献を続けることで、より広いコミュニティが恩恵を受けることになる。

2.3 予防的ストーマケア

予防的ストーマケアは、術前教育からストーマ周囲の皮膚管理、ストーマ装具の装着、ストーマ造設後の生活におけるメンタルヘルスマネジメントまでを含む、包括的な用語である。予防的ストーマケアの目的は、ストーマの受容とストーマに関連したストーマ周囲皮膚合併症およびメンタルヘルスに関連する問題（メンタルヘルスマネジメント不調）の予防の両方にある。文献によると、一度でも漏れが発生すると、ストーマ保有者は最長で1年間、心理的に悪影響を受け、精神的ウェルビーイングに影響を及ぼし、社会から孤立しやすくなることが示唆されている(4)。

ストーマケアの中心は、病院でも、ストーマケア看護師でも、政策でもなく、ストーマ保有者自身であることを忘れてはならない。したがって、システムはストーマ保有者がシステムに適応することを求めるのではなく、患者のニーズを満たすように配慮すべきである。

- ストーマ保有者は退院後、自身のストーマ管理における主要な意思決定者となり、必要なストーマ用品の選択においてストーマケア看護師と連携しながら、それを行う。
- ストーマ保有者を支援するためには、ストーマを管理し、ストーマに関連した合併症を予防するための十分な支援と資源を確保することが最も重要である。
- ストーマ保有者にとって、ストーマの管理は必要不可欠である。ストーマ保有者は、ストーマ装具を定期的に交換し、ストーマ周囲皮膚合併症を起こしていないか注意深く観察しながら、健康維持のためのルーティンを継続する必要がある。ストーマからの排泄量が増



2026年1月9日

える前に、適切なタイミングでストーマ袋を空にするといった一見単純な対応が、快適な生活を送れるか、あるいは痛みを伴う合併症につながるかの分かれ道となる。

- 適切な製品の入手が制限されている場合、ストーマ保有者は長時間の装着や不適切な代替品に頼ることになり、不快感や医学的懸念につながる可能性がある。ストーマ保有者に必要な資源や教育がなければ、こうしたリスクを軽減する予防的介入を実施することは困難となる。
- ストーマ保有者が、皮膚保護剤、ストーマ袋、サポート製品などのストーマケア用品を入手できなければ、適切なサポートがあれば対処できるにもかかわらず、多くの人が漏れや合併症を避けられないものとして受け入れてしまうかもしれない。

2.4 医療は患者へのエンパワーメントであり、社会への投資でもある。

2022年、日本のストーマ保有者 684名を対象に調査が行われた(12)。調査によると、主な困難は、ストーマケアの実務的な管理、ストーマ装具の交換、ストーマ周囲の皮膚の健康維持、羞恥を感じる状況の経験などであった。最もインパクトのある大きい課題は、親密な関係を築くことの困難さや、ストーマを自分のアイデンティティの一部として認識できないことであった。これは、ストーマ保有者に力を与えることの多面的な難しさと、個人ごとに最適化されたケアプランへのアクセスを確保する必要性を強調している。

- 個別化された予防的ストーマケアは、ストーマ保有者の尊厳や自信、自立、全身の健康の維持をサポートする
- 適切な支援や評価がなければ、ストーマ保有者はしばしば、ボディイメージの低下(9)、自信の喪失、性的不満、さらには抑うつ(7)といった課題に直面する。
- ストーマ保有者が十分な数量のストーマ装具を使用することが制限されると、ストーマ装具を長時間使用するために、水泳、スポーツ、外出などの生活の選択に妥協せざるを得なくなる可能性がある。
- ストーマケアの習慣（ルーティン）が一貫して継続できれば、ストーマ保有者は合併症の予防だけでなく、生活の安定感や日常性を取り戻せる。
- ストーマ関連合併症の予防が不十分な場合、ストーマ周囲の皮膚トラブルや排泄物の漏れといった問題が生じ、医療費の増加につながり、社会全体にとって大きな経済的負担となる可能性がある。
 - ストーマケア看護師による外来での追加的な指導・評価が必要（ストーマ外来への臨時受診が必要）
 - 再入院
 - 労働能力の低下
 - QOL（生活の質）の低下



2026年1月9日

- ヘルスケア製品／治療の需要増 (10)
- ストーマ合併症には様々な費用がかかるため、予防的ストーマケアへの投資は、ストーマ保有者、医療制度、社会全体にとって価値がある(1,8)。

重要なことは、個別化された予防的ストーマケアを成功裡に実施するためには、医療従事者がこのアプローチを効果的に提供できるよう支援する政府の枠組みが十分である必要がある。その上で、医療従事者は、ストーマ保有者を支援するために、政府が策定した枠組みを個別化し予防的な実践に変換する重要な役割を果たす。

3.まとめ

本パブリックステートメントは、包括的な End to End のストーマケアを実施するために、複数の関係者間の機能横断的な協力の必要性を強調している。医療支援と十分なストーマ装具へのアクセスを確保し、個別化された予防的ストーマケアアプローチを促進することによって、ストーマ保有者個人、医療システム、さらに社会は恩恵を受ける。個別のストーマケア計画を充実させることで、ストーマ保有者が抱える多面的なニーズの一部が軽減され、ストーマに関連する合併症のリスクが低減し、ストーマ外来への受診等による専門看護師の対応や再入院を最小限に抑えることができる。その一方で、ストーマ保有者が再就職するためのより良い条件が生まれ、オストメイトの権利憲章のビジョンがさらに前進し、より自律的で尊厳のある生活を送ることができるようになる。



参考文献

1. Jeppesen PB, Vestergaard M, Boisen EB, Ajslev TA. Impact of stoma leakage in everyday life: data from the Ostomy Life Study 2019. *Br J Nurs.* 2022;31(6):S48-s58.
2. Richbourg L, Thorpe JM, Rapp CG. Difficulties experienced by the ostomate after hospital discharge. *J Wound Ostomy Continence Nurs.* 2007;34(1):70-9.
3. Claessens I, Probert R, Tielemans C, Steen Hansen A, Nilsson C, Andersen B, et al. The Ostomy Life Study: The everyday challenges faced by people living with a stoma in a snapshot. *Gastrointestinal Nursing.* 2015;13:18-25.
4. Chris Juul H, Teresa Adeltoft A, Rikke Z, Anne Steen H. Leakage and peristomal skin complications influences user comfort and confidence and are associated with reduced quality of life in people with a stoma. *WCET Journal - Portuguese Edition.* 2020;40(4).
5. International Ostomy Association, Charter of Rights, IOA Coordination Committee, June 1993: Revised June 1997 Revised by World Council; 2004, 2007
6. Ambe PC, Kugler CM, Breuing J, Grohmann E, Friedel J, Hess S, et al. The effect of preoperative stoma site marking on risk of stoma-related complications in patients with intestinal ostomy - A systematic review and meta-analysis. *Colorectal Dis.* 2022;24(8):904-17.
7. Brady RRW, Sheard D, Howard K, Vestergaard M, Boisen EB, Mather R, et al. The Prevalence of Leakage, Peristomal Skin Complications and Impact on Quality of Life in the First Year Following Stoma Surgery. *Nurs Rep.* 2025;15(3).
8. Fellows J, Voegeli D, Håkan-Bloch J, Herschend NO, Størling Z. Multinational survey on living with an ostomy: prevalence and impact of peristomal skin complications. *Br J Nurs.* 2021;30(16):S22-s30.
9. Thorpe G, Arthur A, McArthur M. Adjusting to bodily change following stoma formation: a phenomenological study. *Disabil Rehabil.* 2016;38(18):1791-802.
10. de Fries Jensen L, Rolls N, Russell-Roberts P, Vestergaard M, Jensen ML, Boisen EB. Leakage of stomal effluent outside the baseplate leads to rise in product usage and health professional interactions. *Br J Nurs.* 2023;32(1):8-19.
11. Rolls N, de Fries Jensen L, Mthombeni F, Vardanega V, Håkan-Bloch J, van Hest N, et al. Healthcare resource use and associated costs for patients with an ileostomy experiencing peristomal skin complications. *Int Wound J.* 2023;20(7):2540-50.
12. Exploratory Descriptive Analysis of Perioperative Stoma Care and Outcomes: Comparing Japan to Global Averages. ISPOR presentation database. 2025-09, ISPOR Real-World Evidence Summit 2025, Tokyo, Japan